滋賀県議会議員 きのせ明子県政レポート

No.6

2021年4月

日本共産

大戸川ダムは〝効果が極めて限定的〟〝かつ想定外には危険〟
越水破堤しにくい堤防補強こそ一刻も早く実施を

国土交通省近畿地方整備局は、２００９年に策定された「淀川水系河川整備計画」を、河川整備の進捗状況と近年の気候変動などを踏まえた治水計画に見直すとして、「変更原案」を公表し、３月１日から31日までパブリックコメントを募集し、26日には関係住民の公聴会を実施しました。大戸川ダムの整備の是非が主な焦点です。黄野瀬議員は、公聴会の公述人に応募し、大戸川ダムの目的と効果、危険について意見をのべ、大戸川ダム建設は不要であり、越水破堤しにくい堤防補強を一刻も早く実施するよう意見を述べました。発言の要旨を報告します。

淀川水系河川整備計画変更原案に対し意見を述べます。

はじめに、近年頻発する、想定を超える豪雨災害から、いかにして住民の命を守るのかという計画は、国や自治体が考えるだけでなく、住民参加が大事だと思います。そう考えることから、今回の計画変更について、住民への周知や説明をもっと丁寧にすることを求めます。パブコメの期間がわずか1か月では短か過ぎます。国や地方自治体が計画をつくり整備すれば、水害を治められる時代ではなくなりました。計画策定に住民の意見を聞くべきと考えます。

大戸川ダムの必要性について

大戸川ダムの本来の目的は、下流の淀川水系の治水安全度の向上ですが、その効果は極めて限定的です。2月26日の衆議院予算分科会で、穀田けいじ議員が治水効果を質疑しました。２００年に1度の洪水を想定した場合、淀川の枚方の基準地点で計画高水位よりも17㎝超過する洪水になるが、大戸川ダムが完成すれば、流れる水量は毎秒４００㎥軽減し、水位を19㎝下げられるとの答弁がありました。しかし、そもそも枚方の基準地点の堤防は、計画高水位よりも3メートルの余裕高さがあり、すでに遮水シート工事が完了していて、実際には壊れにくい堤防になっています。洪水は堤防を超えないため、「計画高水位を17㎝超えるから大洪水になる」ことは現実にはありえません。大戸川ダムを必要とするそもそもの前提がありません。１０８０億円の経費をかけて、微小な効果しかない大戸川ダム建設は必要ないと考えます。関係住民への説明を求めます。

既存ダムの活用について

昨年、「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた協議の場（第2回目）」が行われ、淀川水系のいくつかの既存ダムを治水に活用できると発表されました。大戸川ダムの貯水量よりもはるかに多い貯水量が確保できる可能性があります。大戸川ダム建設に舵をきる前に、既存ダムの活用を検討し、その結果を整備計画変更案に反映することを求めます。

大戸川ダムがあることによる危険について

滋賀県が２０１９年におこなった、「大戸川ダム効果を検証した勉強会」で、過去の４つの大規模降雨（平成25年18号台風、平成30年西日本豪雨、平成29年九州北部豪雨、平成27年関東東北豪雨）をシミュレーションしたうち、3のケースで異常洪水時防災操作（いわゆる緊急放流）を行う結果となりました。大戸川ダムの容量は、１００年に1回の降雨を設定したものであり、その規模を超える降雨は、近年頻回に降っています。ダム下流の大戸川の流下能力は10年に1回規模の洪水を想定した整備が、現在８割完了したにすぎず、これが完成し、仮に大戸川ダムも完成したとしても、そのダムの容量を超過する流量が流入すれば、異常洪水時防災操作によって、急激に流量が増えてしまう。避難をするしかありませんが、その場合の越水破堤の危険がリアルに示されていません。私は、平成30年西日本豪雨災害で51人が犠牲となった、岡山県倉敷市真備町を調査しました。真備町の被害を深刻にしたのは越水破堤でした。ダムの緊急放流が急激な水位上昇をまねき、逃げ遅れが生じました。同様に、大戸川ダムが限界を超えた時の危険を検証し説明するべきと考えます。

越水破堤をふせぐ堤防補強について

国の管理する河川の水害の要因の7～8割は越水破堤でした。大戸川ダムの建設よりも、越水破堤しにくい堤防補強の整備こそ望みます。整備計画の変更原案には、「越水しにくい堤防補強整備」をすすめることが新たに盛り込まれました。しかし、どこを対象に整備するのかわかりにくい記述です。岡山県真備町の水害では、整備対象になっていなかった支川でバックウォーターが起こり、決壊し大洪水となりました。これまで整備計画の対象になっていなかった支川も検討に含め、人が居住しているところを最優先に、越水破堤をふせぐ堤防補強にすることを求めます。

ありがとうございました。

滋賀県政に対するご意見・ご要望をお聞かせください

日本共産党滋賀県議団控室（県庁内）　☎528－4030　FAX522－7740

日本共産党滋賀県委員会（大津市昭和町4-8）　☎522－8210　FAX522－8282

メールアドレス：kinoko0325@outlook.jp　SNS：きのせ明子　黄野瀬明子

公述人として発言されたYさんの発言を紹介します。紙面の関係で一部割愛しました。

SDGs・自然と人が共生できるように ダムではなく遊水池になる河川公園を

「自然とともに生きてきたものとして」

私は、大戸川が瀬田川に合流する、湖南アルプス田上山のふもと大津市関津に住んでいます。山から流れる水路には、蛍が住み、秋にはヒガンバナが咲き、田んぼと山と川のあるのどかな田園地域です。趣味は、山歩きと植物観察で、近所の人や子どもたちと近辺の野山に出かけ、自然を楽しんできました。

ところが、昨年より新名神の工事で、見慣れた山があちらもこちら削られ、すぐ近くに京滋バイパスもあり、貴重な自然をこわしています。「これ以上道路が必要なのか。はげ山からやっと緑がもどった山をまた削るのか。いいかげんにしてほしい」と思っていると、大戸川ダムが凍結解除になるという話を報道で知りました。大戸川流域の住民として、この地の自然とともに生きてきた者として、意を決し出てまいりました。

まずは結論です。大戸川ダムをつくらないでください。自然への負荷が大きいダム治水ではなく、そのお金でしっかりした堤防や、河川公園などの遊水地を十分に確保する地水・防災を考えてほしいのです。SDGs、持続可能な開発目標に照らしても、ダムではなく他の方法でと考えます。

今回、大戸川ダム計画が動きだしそうだと聞き、まわりの人たちにたずねてみました。「現に工事しているしなぁ」という人もいましたが、ほとんどの人たちが「なんで今さら」「10年以上止まっているけど何も困っていないし」「これ以上税金をかけるのもったいない」という意見が大半でした。『周辺住民も大津市民も早期建設を要望してきた』と言われていますが、大津市民であり大戸川周辺の住民として、少なくとも私やまわりの人たちは、大戸川ダムをつくってほしいと要望した覚えはありません。大戸川ダムの計画は、整備計画から外してください。

「遊水地にもなる自然豊かな河川公園を」

ダム事業費1080億円です。これだけ多額のお金があるなら、他に使ってほしい。コロナ禍、医療機関や介護施設を支援拡充したり、子どもたちの教育費を大幅に増やしたりしてほしい。治水や防災なら、河川公園を大戸川流域にも大規模につくってほしい。

先日、鳥を見に淀川河川公園に行きました。近畿地方整備局淀川河川事務所が整備されたものです。この河川公園は、桂川、宇治川、木津川が淀川に合流する、三川合流域さくらであい館があり、背割り桜でにぎわい、サイクリングロードもあります。使いやすく魅力のある施設でした。モズ、鶯、ホオジロ、ジョウビタキ、コゲラなど、水鳥では希少種のカワアイサも泳いでいました。なんと22種の野鳥たちと出会いました。植物では、外来種もありましたが、ゴマギや踊子草など、伊吹山や横山岳くらいでしか出会えない植物も生えていました。河川公園内は、自然と人との調和を考えて、野生生物や在来植物が生きていける程度に、手入れされすぎず、程よい状態の水辺空間でした。このような公園を河川の流域につくってほしいのです。上田上や田上の大戸川流域、過去の台風で浸水した土地を買い取ったり、借用したりして河川公園として整備はできないものでしょうか。住み慣れた土地を奪われた大鳥居の方々の思いを考えれば、家々のあった場所が豊かな公園として整備されればと思います。子どもも大人も自然を楽しめるし、いざというときには、大きな遊水地として水を逃がして洪水を防げるのではないでしょうか。この淀川河川公園を計画整備されたのは、近畿地方整備局の方々です。こういう仕事をこそ大いにしてほしいと願います。

これも先日のことですが、大戸川を上流へとさかのぼり、ヤマセミ、カワセミをさがしに行きました。カワセミがいる川は滋賀にも結構ありますが、ヤマセミがいる川はあまりなく、私もまだ見たことがありません。残念ながら生息しているらしいと教えてもらったところは、道路の付け替え工事をしている辺りで車を停める場所もなく、上流へと行きました。そこには、信楽の深い森や鶏鳴の滝もあり、こごみも自生していて本当によい川です。このような川だからこそ、大量のコンクリートで水をせき止めるダムではなく、人と自然が共生できる方向でぜひ治水を計画してほしいのです。

「異常気象のいまだからダムは危険」

そんなことを言っていても「洪水が起きたらどうするのだ、ダムがないと不安だ」というのが地元住民の声だといわれます。私も地元住民ですが、そうは思いません。それどころか2018年7月の、西日本豪雨で、ダムの緊急放水で家が流され、犠牲者まででたというニュースが流れました。そのとき大戸川ダムができていなくてほんとうによかったと安堵したものです。もうダムをつくるなんて誰もいわないだろうと思いました。調べてみると愛媛県の肱川流域の野村ダム、鹿野川ダム2つのダムが決壊しそうで、大量の水を流し、下流域の住民が流され、8人の犠牲者、3500戸の浸水があったといいます。昨年、ダム放流をめぐり裁判もおこされています。河川整備の予算が少なく、ダムはつくっても堤防が脆弱であったようです。水を上流に大量にためるダムは、雨が降りすぎたら、人災ともいえる緊急放流の危険がある。また地震国日本、地震でダムがいつこわれるかもわかりません。また老朽化したら大きな建造物をお金をかけて壊さなくてはなりません。また、老朽化する前に、土砂がたまり役に立たないかもわかりません。

確かにダムができると、その容積分だけは雨水がたまり治水成功に見えます。でも私が強調したいのは、昨今の異常気象です。2018年の西日本豪雨も、昨年の九州や東北の豪雨も、線状降水帯というものが長期間、同じ場所に居座って雨を降らし続けて発生しています。10年に1度の大雨という言葉も何度も聞くようになりました。1つのダムをつくって解決するような雨の程度ではないのではいでしょうか。降り続いたときには、肱川のように決壊前に放流し、下流域の私たちの家や田んぼが洪水に巻き込まれます。異常な雨が降る昨今だからこそダムが危険なのです。

一定の効果しかないダムをつくるのではなく、そのお金の一部を使って、ぜひ流域の林業、農業を応援し放棄地を整備し、自然の森や美しい田畑にもどしていくだけでも洪水の確率は下がると思います。

以上、淀川水系河川整備計画の変更原案の中にある、大戸川ダムを進めることに、反対します。自然と調和した、人と共生できる堤防や河川公園を大規模に整備し、人も生きものも、気持ちよく生きられる水辺空間にしてほしいです。それが税金を有効に活用する今の私の考える最良の方法です。ご清聴ありがとうございました。